

各支店長・営農指導員殿

今年はいつまでも寒さが続きます。特にこの一週間はほぼ毎日、霜や氷が見られるなど、前年を上回る低温となっております。この影響が、苗や、既に定植された作物に出てきております。作物管理には温度のチェックが不可欠でありますので、ご指導方よろしく申し上げます。

寒さあたりについて (トマト、ブロッコリー苗)

前回、巡回以降も低温が続いております。温度の変化の傾向地も前回よりさらに下方に修正となっております。特に 3 月 28 日の最低気温は - 4 程度まで低下しており、トマト苗や、定植が終わっている苗は凍害により、部分的に枯死、脱色などの被害が発生しております。

ブロッコリーの苗も無加温の冷床にある苗は、アントシアンが強く発生している苗が見受けられております。こうした苗は、前月号でお知らせしたとおり、ポトニングが発生する可能性が高いので、温床に戻すか、日中 30 以上の高温管理とし、障害の発生を極力避けるような管理を行なって下さい。

ミディトマトやマルセイユメロンの定植時期となってきておりますが、巡回すると圃場の準備が遅れているハウスが多く見られます。準備を急ぐとともに、**マルチは透明か緑マルチとし、定植には必ず、地中温度計で温度を確認してください。**

ハウス巡回をしていますと、**依然として最高最低温度計が設置されていないハウスが多くあります。**特に 3 月は天候の変化で、最も寒暖の差が大きくなる時期です。ハウスや育苗どこの温度変化の把握ができていない状況では、適切な管理は出来ません。育苗中の管理の結果が、本圃での生育に大きく影響してきますので、充分注意してください。



寒さで枯れ込みの発生したトマト。



寒さで、組織が傷んだ？ミディ。



順調な生育しているブロッコリー苗。



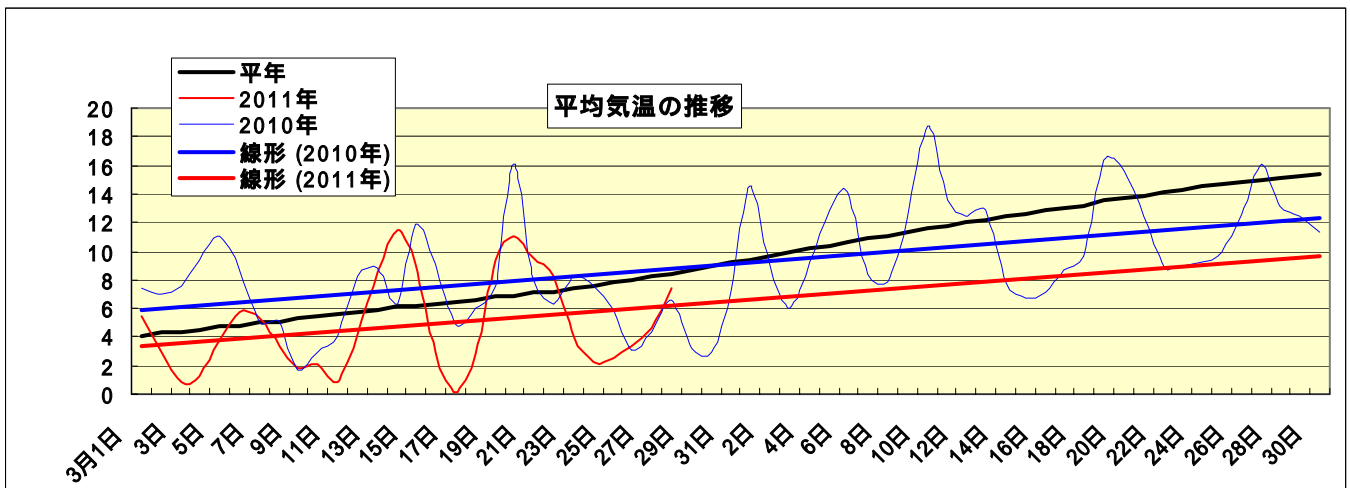
正常に生育している苗。



寒さ当たりでアントシアンの出た苗。



ハウスから出して寒さに当たった苗。



線形とは日々の変動を平均化して傾向値を表したものです。

ジャガイモの植え付けについて

ジャガイモの植え付け時期に入ってきており、問い合わせが多くなってきていますので、要点を整理しておきます。

連作を行わないこと。(トマト、ナス、ピーマン、シシトウ、ジャガイモなどと)

鶏糞や油粕、未熟堆肥は使わないほうが無難(肌が荒れやすい)。

石灰はほかの作物の半分から1/3くらいとする。(多いとそうか病などに罹病しやすい。)

施肥の考え方は元肥重点とします。生育の状況が思わしくない場合は、土寄せ時に若干の追肥を行ないます。

施肥の量は土質や前作物によっても変わります。新規の畑や転換畑でない限り、畑には肥料分が残っていると、施肥量は少し控えめにスタートしたほうが良い。

肥料銘柄について、ジャガイモ専用肥料はありませんので、JA たなんん取り扱いの肥料の中では「化成高度550」(N5、P15、K20)が使いやすいでしょう。そさい3号やあさひ、有機質肥料を使う場合は、窒素過多による過繁茂とならないよう、ヨウリンや加里(塩化カリ、硫化加里、草木加里など)を添加します。

施肥例	施肥区分	銘柄	基準施肥量 (1a 当たり)	N	P	K
				0.8~1.5	1.8~2.0	1.3~1.5
化成肥料 例 1	元肥	化成高度 550	15kg	0.75	2.25	3.0
	追肥	そさい3号	2 kg	0.32	0.2	0.28
	合計			1.1	2.5	3.3
化成肥料 例 2	元肥	あさひ	5 kg	0.8	0.5	0.6
	元肥	ようりん	5 kg	0.0	1.0	0.0
	元肥	硫化加里	3 kg	0.0	0.0	1.5
	追肥	そさい3号	2 kg	0.32	0.2	0.28
	合計			1.1	1.7	2.4

作付けの度に、そうか病が毎年発生する場合はネビジン粉剤かフロンサイド粉剤を1a 当たり3~4 kg 施用する。

依然として問い合わせが目立つのが、

鶏糞を使用する。(基本的にダメ)

石灰を多く使う。(少なく)

そさい3号を元肥で使う。(基本的には追肥で使う。)

施用方法は置肥とする。(全面もしくは作条処理する。)

と言った初歩的なことです。